

法政大学大学院  
入学試験問題用紙

試験科目	法学研究科 法律学専攻 修士課程《一般・外国人》・研修生	2026年度 秋季	試験時間
外国語 (日本語)			90分

辞書参照 (  可 ) ・ 否 )

[注 意] 解答は別紙の解答用紙に記入すること。

以下の文章は、村上淳一『〈法〉の歴史』(東京大学出版会、1997年)からの抜粋である(同書182-186頁)。この文章を読んで、以下の【設問】に答えなさい。

なお、解答にあたっては、本問が、法律学に関する知識や意見の内容の当否を評価するものではなく、日本語に関する読解力や文章力を問うものであることに留意すること。

著作権の関係で、本文は掲載いたしません。

法政大学大学院  
入学試験問題用紙

試験科目	法学研究科 法律学専攻 修士課程<一般・外国人>・研修生	2026年度 秋季	試験時間
外国語 (日本語)			90分

辞書参照 (可)・否)

[注 意] 解答は別紙の解答用紙に記入すること。

著作権の関係で、本文は掲載いたしません。

法政大学大学院  
入学試験問題用紙

試験科目	法学研究科 法律学専攻 修士課程《一般・外国人》・研修生	2026年度 秋季	試験時間
外国語 (日本語)			90分

辞書参照 (可)・否)

[注 意] 解答は別紙の解答用紙に記入すること。

著作権の関係で、本文は掲載いたしません。

【設問】

- (1) 下線部(1)「法の『適用モデル』ないし『包摂モデル』」とは、どのような意味で用いられているか。上記文章の内容に沿って簡潔に説明しなさい。
- (2) 下線部(2)「確かなルールの『適用』による確かな判断」とは、どういうことか。裁判を例に挙げて、上記文章の内容に沿って説明しなさい。
- (3) 下線部(3)「確実な秩序があいまいな秩序に逆行しようとしているというわけではない」とは、どういうことか。上記文章の内容に沿って説明しなさい。
- (4) 上記文章の筆者は、「『あれかこれか』の法文化」をどのように評価しているかについて説明しなさい。その上で、筆者の評価について、あなたの考えを述べなさい。